

評論を構造的にとらえる読み —大学入学試験を意識した自分一人での読み—

- 1 科目名 現代文 B
- 2 単元名 評論
- 3 教材名 鷲田清一「垂直のファッション、水平のファッション」
(学習プリント1～3、本文プリントを使用)
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>①単元の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価できる。 (読む能力)</p> <p>イ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 (知識・理解、書く能力)</p> <p>ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしようとする。 (関心・意欲・態度)</p> </div> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在1年次からの持ち上がりで3年生の現代文の授業を担当しているが、1年次からグループ形態での授業やペア・グループワーク等の様々な言語活動を行ってきた。その成果として国語に苦手意識を持つ生徒も前向きに授業に取り組む姿勢を培うことができた実感している。そして、最終学年となりほぼ全員が大学への進学を希望する本校において、3年間で身に付けた確かな学力の保証の機会として、大学入学試験の問題を解くことができるということが最終的な出口になるのではないかと考えた。 ・普段の授業で評論を扱う際、教師の解説によって本文で述べられている内容を理解することはできても、初見の文章を読むに当たり自分一人の力で読み進めていくことを困難に感じている生徒が多いという実態が、模試等の結果から見えてきた。 ・大学入学試験や社会に出た後で文章に触れる際には、初めて読む文章を自分の力で論理的に読み取らねばならない。そのために、筆者の主張・一般論・具体例・言い換え・二項対立等の評論の構造を意識した上で、自身で着眼点を明確にして読み進められる力を付ける必要があると考えた。 <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学試験を想定して、各自が本文プリントに書かれた着目ポイントを意識して、線を引きながら黙読する。 ・学習プリントの構図に従って記入していくことで、文章の構造を意識的にとらえる。 ・自分一人の力で読み進めなければならない大学入学試験本番により近い状態で読み進められるというメリットがある一方、指名等によりこまめに確認しなければ生徒の理解度を把握しづらいというデメリットがある。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文プリントに線を引いた箇所や学習プリントに記入した内容をペアワークによって確認する。 ・自分一人の読みを重視する中でも、個人から全体での確認へと進む前にペアワークを設け、他者と意見を共有したり自分の考えを見直したりする機会をより多く設けたいと考えた。 <p>⑤評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 35%;">評価規準</th> <th style="width: 30%;">評価方法</th> <th style="width: 25%;">状況Cの生徒への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">読む能力</td> <td>①ヒントを参考にして、本文を読解するために重要な箇所に線を引いたり、学習プリントに記入したりしている。</td> <td>観察 (机間指導・発表)</td> <td>・再度ヒントを確認し、本文を読み直してみるよう助言する。</td> </tr> </tbody> </table>		評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	読む能力	①ヒントを参考にして、本文を読解するために重要な箇所に線を引いたり、学習プリントに記入したりしている。	観察 (机間指導・発表)	・再度ヒントを確認し、本文を読み直してみるよう助言する。
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応						
読む能力	①ヒントを参考にして、本文を読解するために重要な箇所に線を引いたり、学習プリントに記入したりしている。	観察 (机間指導・発表)	・再度ヒントを確認し、本文を読み直してみるよう助言する。						

	知識・理解 書く能力	①本文の内容を読み取った上で、的確な要約が書けている。	点検（各段落の終了時に学習プリントを提出）	・学習プリントでの添削により、着目すべき事柄を提示し、書き直してみるよう促す。
	関心・意欲・態度	①本文から読み取った内容（課題・問題点）を自身の身近な問題と結び付けて考えようとしている。	観察（机間指導・発表）	・具体例を示し、その点について考えてみるよう助言する。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学試験の本番を想定した自分一人での読みを行った上で、それのみで終わらず、他者と意見を交流したり教師の解説を聞いたりすることでより理解を深めることができた。 ・これまで継続的に行ってきたグループ形態での授業方式に慣れている生徒の中には、戸惑いを感じてスムーズに活動に入りにくい者もいた。 			
アドバイス 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ①日頃から個人での活動、ペア・グループ活動のバランスを考えた授業を行い、大学入学試験を目前に控えた今回は自分一人での読みを重視していくということを事前によく理解させて活動に入る。 ②全ての科目、教材で行うことができる。 			
小中学校との 系統性	①(中学校・第三学年・C読むこと) 「イ文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。」			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	<ul style="list-style-type: none"> ○本文全体を自分一人の力で読み、概要をつかむ。 ○第一段落における結論と理由（根拠）を正確に理解する。 ○第一段落の要約を正しく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文プリントの着目ポイントを意識して本文に線を引きながら読み、ペアワークによる交流で自身の読みを深める。 【ア】 *留意点 ・大学入学試験を目前に控えた時期であるため本番を想定した一人での読みを行うという動機付けを事前にしっかりする。 ・学習プリントの順序に従いながら書き込んでいき、指名発表やペアワークにより第一段落の内容を確認、理解していく。 【ア】 ・全体での第一段落の内容確認が終わった後で、学習プリントに要約を書く。 【オ】 	<p>的確な箇所に線が引けている。【読】 ↓ 観察（机間指導）</p> <p>学習プリントに正しい内容を記入できている。【書・読】 ↓ 観察（机間指導・発表）</p> <p>的確な要約が書けている。【書】 ↓ 観察（添削）</p>	<p>着目ポイントを再確認し、本文を読み直してみるよう助言する。 ↓ 的確に修正されているか確認する。</p> <p>本文の注目すべき箇所を示し、その近辺から読み取るよう助言する。</p> <p>添削時に着目すべき事柄を提示し、書き直してみるよう促す。 ↓ 正しく書き直しているか確認する。</p>

2	<p>○第二段落における二項対立の構造を正確に理解する。</p> <p>○第二段落の要約を正しく書く。</p>	<p>・学習プリントの順序に従いながら書き込んでいき、指名発表やペアワークにより第二段落の内容を確認、理解していく。 【ア】</p> <p>・全体での第二段落の内容確認が終わった後で、学習プリントに要約を書く。 【オ】</p>	<p>学習プリントに正しい内容を記入できている。【書・読】 ↓ 観察（机間指導・発表）</p> <p>的確な要約が書けている。【書】 ↓ 観察（添削）</p>	<p>本文の注目すべき箇所を示し、その近辺から読み取るよう助言する。</p> <p>添削時に着目すべき事柄を提示し、書き直してみるよう促す。 ↓ 正しく書き直せているか確認する。</p>
3	<p>○第三段落における筆者が提示する問題点を正確に理解する。</p> <p>○第三段落の要約を正しく書く。</p>	<p>・学習プリントの順序に従いながら書き込んでいき、指名発表やペアワークにより第三段落の内容を確認、理解していく。 【ア】</p> <p>・全体での第三段落の内容確認が終わった後で、学習プリントに要約を書く。 【オ】</p>	<p>学習プリントに正しい内容を記入できている。【書・読】 ↓ 観察（机間指導・発表）</p> <p>的確な要約が書けている。【書】 ↓ 観察（添削）</p>	<p>本文の注目すべき箇所を示し、その近辺から読み取るよう助言する。</p> <p>添削時に着目すべき事柄を提示し、書き直してみるよう促す。 ↓ 正しく書き直せているか確認する。</p>
4	<p>○本文全体の要約を正しく書く。</p> <p>○本文の主旨を踏まえ、自分たちの「ファクション」が現在どのような状況にあるかを具体的に指摘することができる。</p>	<p>・学習プリントに本文全体の要約を書く。 【オ】</p> <p>・個人で考えた後、グループで意見を交流し、最終的に代表者が発表する。 【ウ】</p> <p>*留意点 ・あくまで本文の理解を深めるための活動であるため、本文の主旨からそれてしまわないよう注意深く観察する。</p>	<p>的確な要約が書けている。【書】 ↓ 観察（添削）</p> <p>グループで積極的に話し合いができており、本文の内容を踏まえた内容になっている。 【関・話・読】 ↓ 観察（机間指導・発表）</p>	<p>添削時に着目すべき事柄を提示し、書き直してみるよう促す。 ↓ 正しく書き直せているか確認する。</p> <p>学習プリントや自身が書いた要約を再確認してみるよう促す。</p>

6 第1時の学習指導案

本時の位置	1 時間目 (全4時間)		
本時の学習目標	<p>ア キーワードやキーセンテンスに対して意識的に読もうとすることで、文章の主旨を的確に読み取ることができる。(読む能力)</p> <p>イ 評論文における文章の構造や言い換え、接続語について理解し、より深い読解に結び付けることができる。(知識・理解)</p>		
事前の準備	<p>①着目ポイントを明示した、線を引くための本文プリントを作成する。</p> <p>②文章の構造の理解を助けるための学習プリントを作成する。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の目標の確認	①教師の話を聞き、本時(本単元)の目標を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学試験を想定した、自分一人での読解が重要な活動になることを強調して伝える。
展開 40分	<p>□本文全体を黙読しながら重要な箇所に線を引く。</p> <p>□第一段落の内容を理解する。</p>	<p>②本文プリントに着目するポイントとして記された、「結論」「理由(根拠)」「二項対立」「言い換え」「問題点」「接続語」等に線を引きながら読み進めていく。</p> <p>③隣の生徒とペアになり交流し、足りない部分を補いながら本文全体の概要をつかむ。</p> <p>④学習プリントへの書き込みと指名発表による確認で以下の点を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭と末尾で結論が述べられる双括型の文章である。 ・「鏡」は「ちょうつがい」と言い換えられ、「媒体」を意味する比喻である。 ・「共通」「共同」という言葉が繰り返されており、結論部分の根拠につながっていることを理解する。 	<p>目標アに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 着目するポイントに沿った適切な箇所に線が引けている。</p> <p>[方法] 机間指導、ペアワークの観察</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文プリントの着目ポイントを再度指摘し、読み直してみるよう促す。 <p>・今後の各段落の精読において、自身が線をついた箇所が的確であったかをその都度確認していくよう指示する。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 学習プリントに適切に書き込むことができている。</p> <p>[方法] 机間指導、指名発表による確認</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の注目すべき箇所を示し、その近辺から読み取るよう助言する。 <p>・本段落に見られるような文章の構造、言い換え、キーワードの繰り返し、接続語(「言い換えると」「例えば」「つまり」等)に着目して読むと、どのような評論も主旨がつかみやすくなることを強調して伝える。</p>
まとめ 5分	<p>□第一段落の要約を書く。</p> <p>□次時の予告</p>	⑤学習プリントの内容を振り返りながら各自で要約を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に学習プリントを回収し、次時までには添削して返却する。